資料１－３

3. モニタリング調査結果報告

3-2.生物群集保護林（4箇所）

（希少種の情報が含まれるため一部非公開）

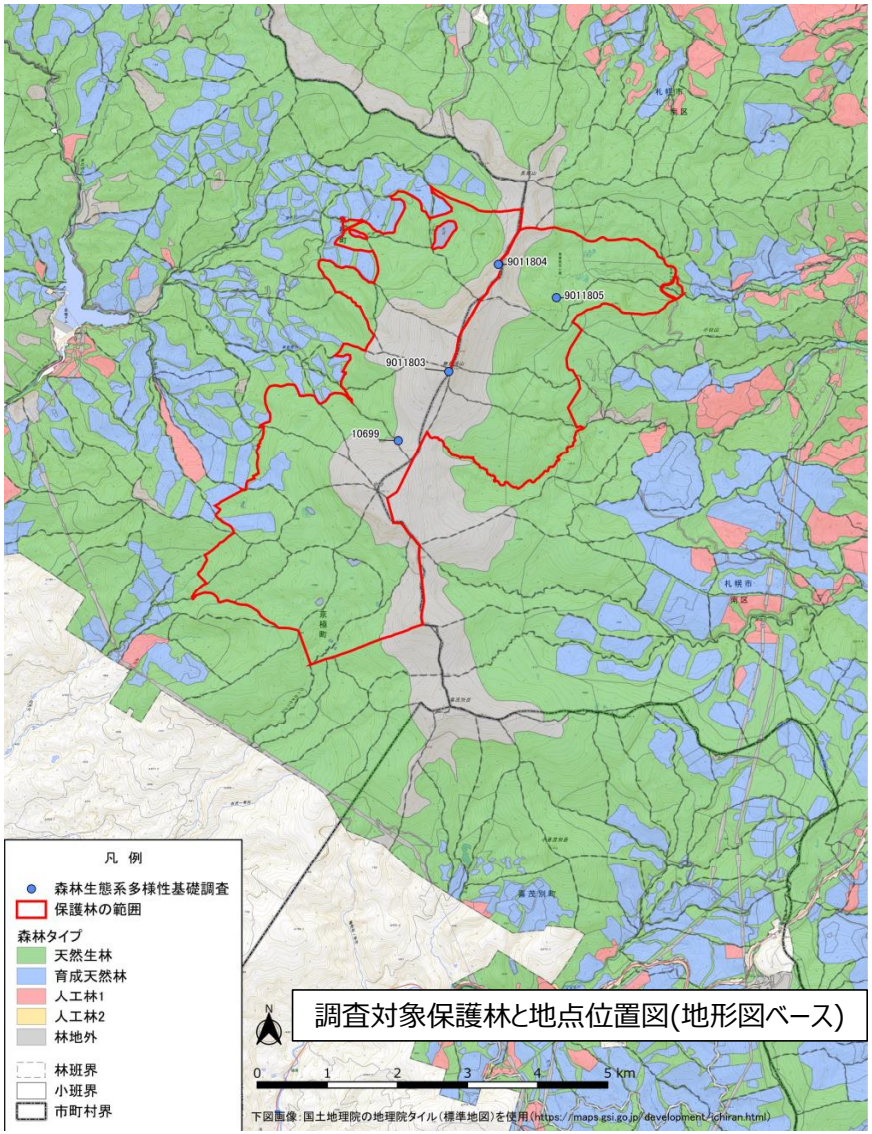
3-2.生物群集保護林（4箇所）

No	保護林ID	保護林名（面積）	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・提案
2	20001	無意根山周辺生物群集保護林（2,047.00ha）	無意根山周辺地域の生物群集を有する森林	R2	・資料調査 ・森林生態系多様性基礎調査（4箇所）	・高山性草原、高山性低木林、ハイマツ帯において、林相の大きな変化はなかったと考えられる。 ・気象害等は確認されなかった。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
3	20012	別寒辺牛生物群集保護林（2,653.60ha）	別寒辺牛川流域の生物群集を有する森林	R2	・資料調査 ・保護林動物調査(鳥類)（8箇所） ・森林生態系多様性基礎調査（3箇所）	・樹林、湿生林において確認される生立木は比較的健全な状態であった。 ・気象害等は確認されなかった。 ・湿原では過年度よりも多くのタンチョウのペアが確認された。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
4	20013	雄阿寒岳生物群集保護林（3,758.52ha）	雄阿寒岳周辺地域の生物群集を有する森林	H27	・資料調査 ・森林生態系多様性基礎調査（3箇所）	・生立木は比較的健全な状態であった。 ・一部の地点で風害や凍害が確認された。 ・各地点の林分の発達段階から考慮すると、植生には大きな変化はなかったと考えられる。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。
5	20020	川湯硫黄山生物群集保護林（358.4ha）	硫黄山周辺の生物群集を有する森林	R2	・資料調査 ・保護林森林詳細調査（3箇所）	・樹林帯の立木は比較的健全であった。 ・ハイマツ帯では生育本数の増加が確認された。 ・下層植生にシカの痕跡が多数確認された。	10年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・モニタリング間隔を5年ごとに変更し、林分の状況及び天然更新過程を観察していく。

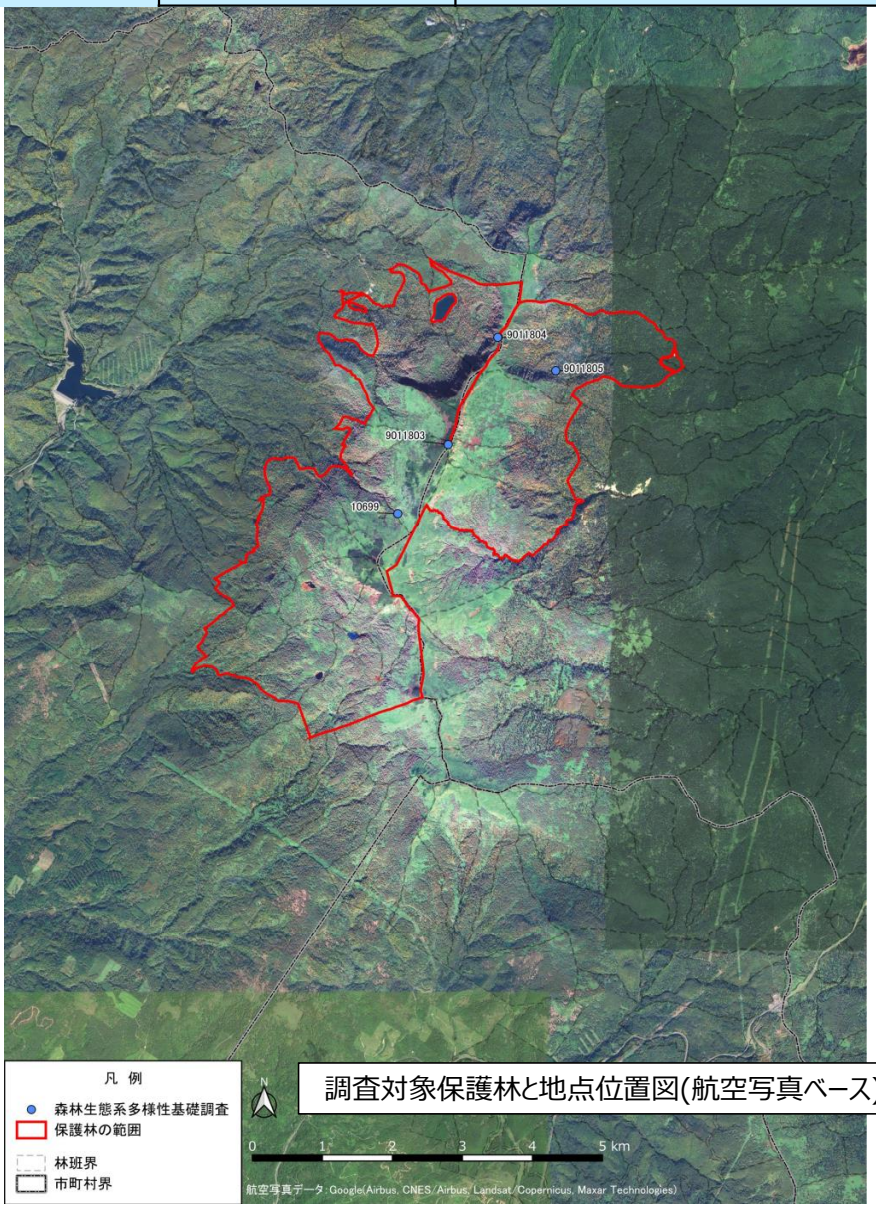
2 無意根山周辺生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(4箇所)

保護対象：無意根山周辺地域の生物群集を有する森林



調査対象保護林と地点位置図(地形図ベース)



調査対象保護林と地点位置図(航空写真ベース)

2 無意根山周辺生物群集保護林

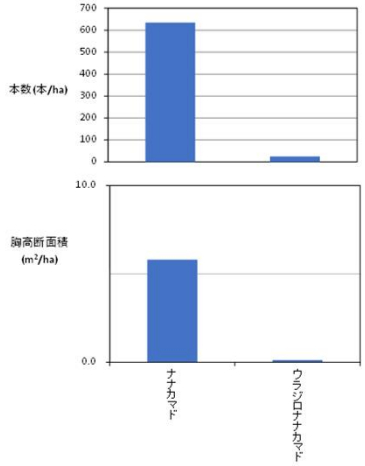
実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(4箇所)

ID 10699

林況写真

磁北方向

磁南方向



樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011803

林況写真

磁北方向

磁南方向

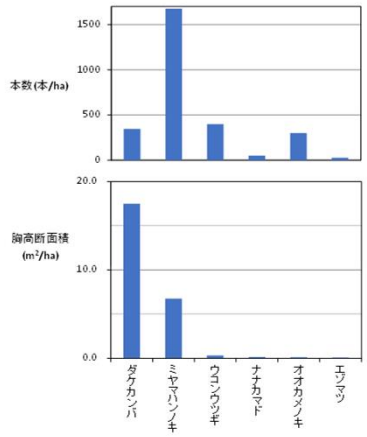
立木なし

ID 9011804

林況写真

磁北方向

磁南方向



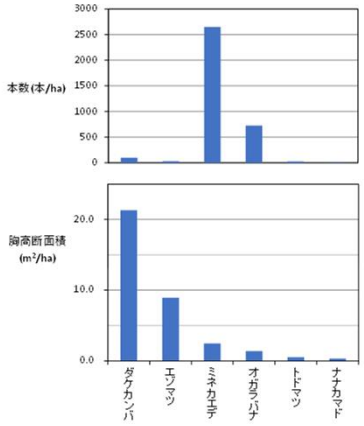
樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011805

林況写真

磁北方向

磁南方向



樹種別本数及び胸高断面積

2 無意根山周辺生物群集保護林

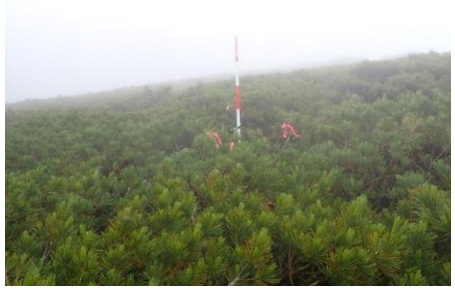
実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(4箇所)

保護林森林概況調査　総括

保護林名		無意根山周辺生物群集保護林			
ID		10699	9011803	9011804	9011805
調査年度		R7	R7	R7	R7
調査日		2025/6/16	2025/6/30	2025/6/24	2025/6/30
発達段階		天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟
施業形跡(5年以内)		なし	なし	なし	なし
林分状況	【高】主要構成樹種	–	–	ダケカンバ	ダケカンバ
	【高】樹高	–	–	8～15m	15～27m
	【高】植被率	0%	0%	20%	60%
	【亜】樹高	–	–	–	10～18m
	【亜】植被率	0%	0%	0%	10%
	【低】主要構成樹種	ナナカマド	ハイマツ	ミヤマハンノキ	ミネカエデ、オガラバナ
	【低】樹高	0.5～5.8m	0.5～1.0m	2.2～5.1m	1.2～3.2m
	【低】植被率	0～30%	100%	0～30%	20～90%
	【草】主要構成樹種	チシマザサ	イソツツジ、オオバスノキ	チシマザサ	ミネカエデ、チシマザサ
	【草】草丈	2.1m	0.5m	2.1m	2m
	【草】植被率	100%	70～80%	90%	80～100%
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	–	–	–
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	–	–	–
備考		–	–	–	–

森林生態系多様性基礎調査(4箇所)

ササ群落の様子（ID10699）



ハイマツ帯の様子（ID9011803）

ダケカンバ、ミヤマハンノキ、チシマザサの混生（ID9011804）

ダケカンバ、ミネカエデ、チシマザサの混生（ID9011805）

確認された影響[特になし]
・高山性草原、高山性低木林、ハイマツ帯において、比較的健全な生育状況であった。
・気象害等は確認されなかった・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3 別寒辺牛生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)、鳥類調査

希少種に関する情報が含まれることから非公開

3 別寒辺牛生物群集保護林

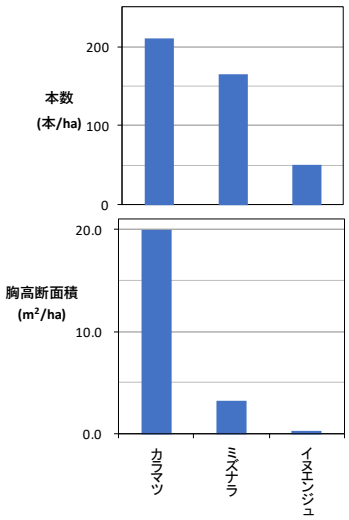
実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)、鳥類調査

ID 14615

林況写真

磁北方向

磁南方向



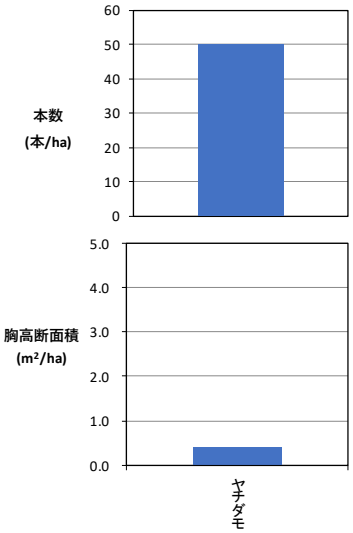
樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011838

林況写真

磁北方向

磁南方向



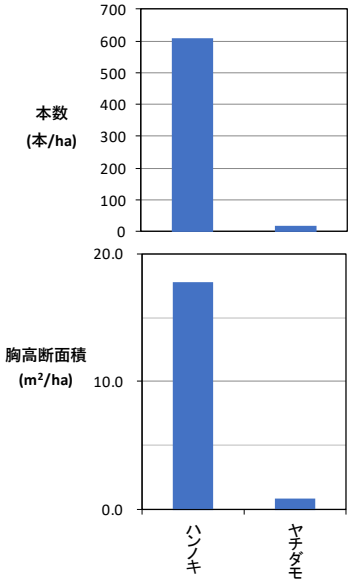
樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011839

林況写真

磁北方向

磁南方向



樹種別本数及び胸高断面積

- 立木の生育状況は比較的健全であった。
- 気象害等は確認されなかった。

3 別寒辺牛生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)、鳥類調査

希少種に関する情報が含まれることから非公開

3 別寒辺牛生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)、鳥類調査

希少種に関する情報が含まれることから非公開

3 別寒辺牛生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)、鳥類調査

総括表

保護林名		別寒辺牛生物群集保護林		
ID		14615	9011838	9011839
調査年度		R6	R7	R7
調査日		2024/8/29	2025/7/4	2025/7/30
発達段階		人口更新、成熟	天然更新、若齢	天然更新、成熟
施業形跡(5年以内)		なし	なし	なし
林分状況	【高】主要構成樹種	カラマツ	ヤチダモ	ハンノキ
	【高】樹高	20～25m	4～6m	10～17m
	【高】植被率	40%	10%	80%
	【亜】樹高	5～12m	–	6～10m
	【亜】植被率	10%	0%	10%
	【低】主要構成樹種	–	–	–
	【低】樹高	–	–	–
	【低】植被率	0%	0%	0%
	【草】主要構成樹種	ミヤコザサ	ヨシ	ホザキシモツケ
	【草】草丈	1.4m	1.6m	2.2m
	【草】植被率	90%	90%	90%
	気象害	–	–	–
	病虫害	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	–	–
	その他痕跡	–	–	–
	痕跡の程度	–	–	–
備考		–	–	–

カラマツ林の様子（ID14615）

ヨシ群落（ID9011838）

ハンノキ林（ID9011839）

飛翔するタンチョウ

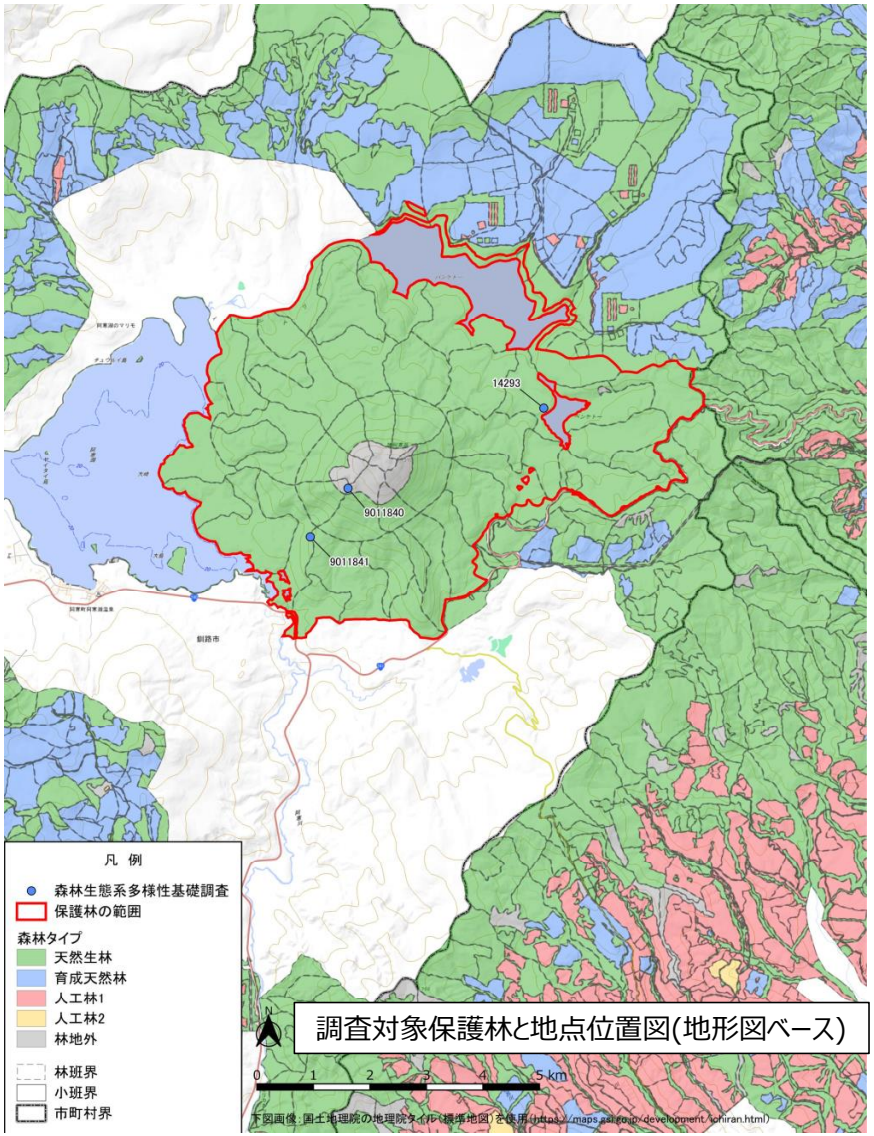
確認された影響[特になし]
・立木の生育状況は比較的健全であり、気象害等は確認されなかった。
・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
・鳥類調査の現行の調査方法は範囲・時間が限定的であるため、保護林の鳥類相を十分に把握できていない可能性がある。今後は広い視野が確保できる場所からの長時間の定点調査や夜間の録音調査等を加えて総合的に把握することが望ましい。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

希少種に関する情報が含まれることから非公開

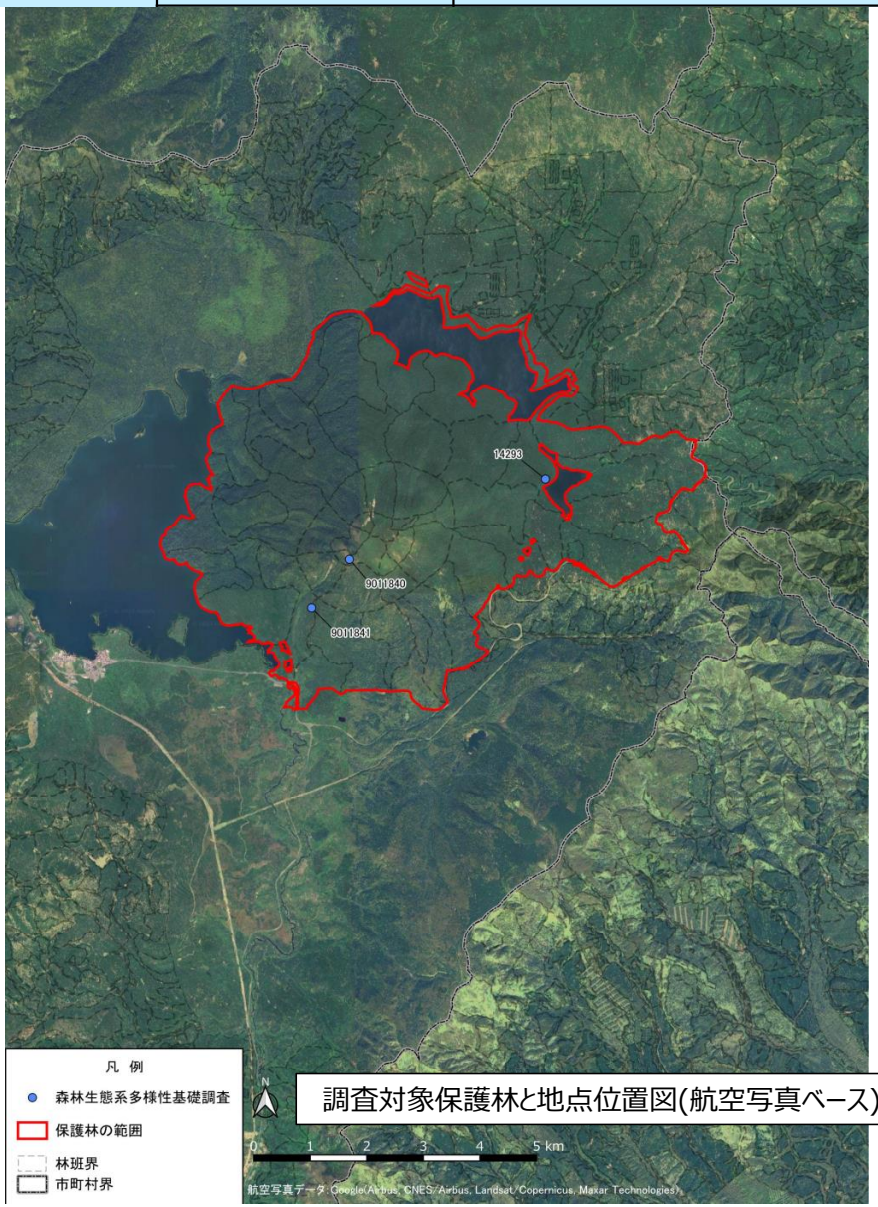
4 雄阿寒岳生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

保護対象：雄阿寒岳周辺地域の生物群集を有する森林



調査対象保護林と地点位置図(地形図ベース)



調査対象保護林と地点位置図(航空写真ベース)

4 雄阿寒岳生物群集保護林

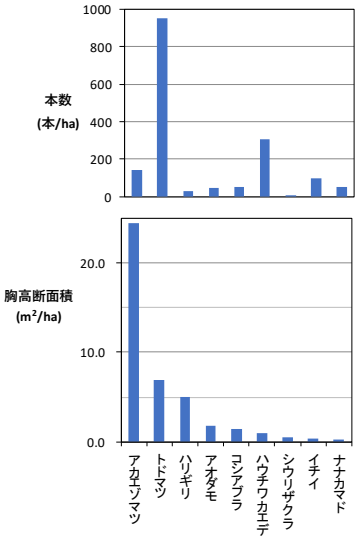
実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

ID 14293

林況写真

磁北方向

磁南方向



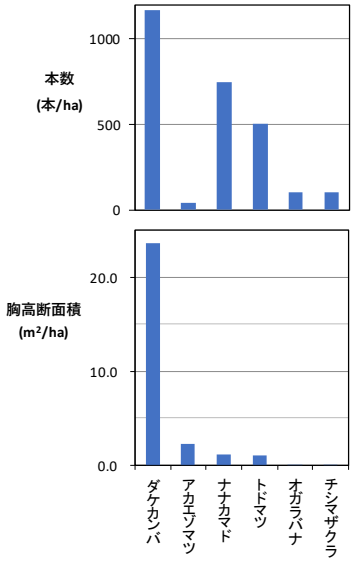
樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011840

林況写真

磁北方向

磁南方向



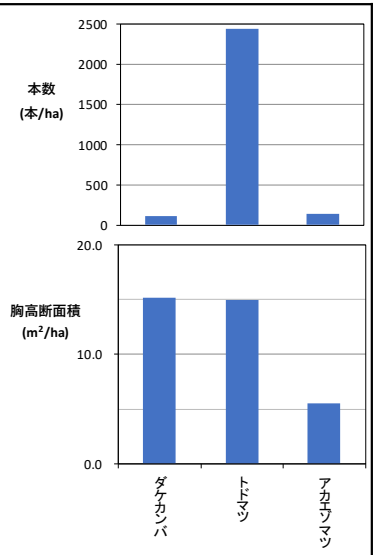
樹種別本数及び胸高断面積

ID 9011841

林況写真

磁北方向

磁南方向



樹種別本数及び胸高断面積

・生立木は比較的健全な状態であった。
・一部の地点で風害や雪害が確認されたが、各地点の林分の発達段階から考慮すると植生には大きな変化はなかったと考えられる。

4 雄阿寒岳生物群集保護林

実施した現地調査	森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

総括表

保護林名		雄阿寒岳生物群集保護林		
ID		14293	9011840	9011841
調査年度		R6	R7	R7
調査日		2024/9/5	2025/6/24	2025/6/25
発達段階		天然更新、老齢	天然更新、成熟	天然更新、成熟
施業形跡(5年以内)		なし	なし	なし
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	ダケカンバ	ダケカンバ
	【高】樹高	17～24m	4～8m	13～25m
	【高】植被率	50%	70%	70%
	【亜】樹高	8～17m	–	6～13m
	【亜】植被率	40%	0%	20%
	【低】主要構成樹種	トドマツ、イチイ	ナナカマド、トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1.0～4.0m	2.0～4.0m	2.0～6.0m
	【低】植被率	50%	10～20%	0～20%
	【草】主要構成樹種	サハリンイトスゲ、ゴゼンタチバナ	イワノガリヤス	コヨウラクツツジ、トドマツ
	【草】草丈	0.6m	2m	2m
	【草】植被率	20～90%	90～100%	80～90%
	気象害	–	風害、雪害	–
	病虫害	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	–	–
	その他痕跡	–	–	キツツキ類（食痕）
	痕跡の程度	–	–	微
備考		–	林冠木は風衝樹形を呈す。	–

針葉樹林内の様子（ID14293）

一部の樹木で確認された風害・雪害（ID9011840）

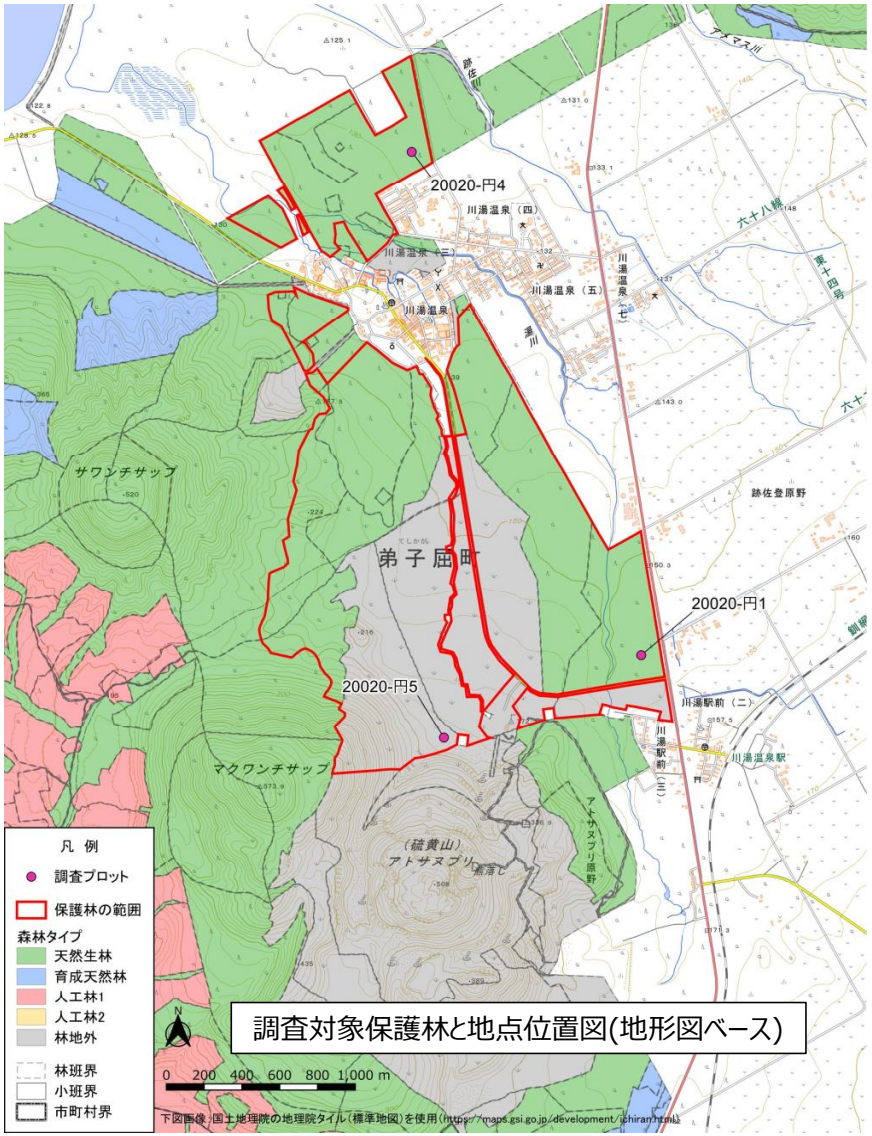
林内の様子（ID9011841）

・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

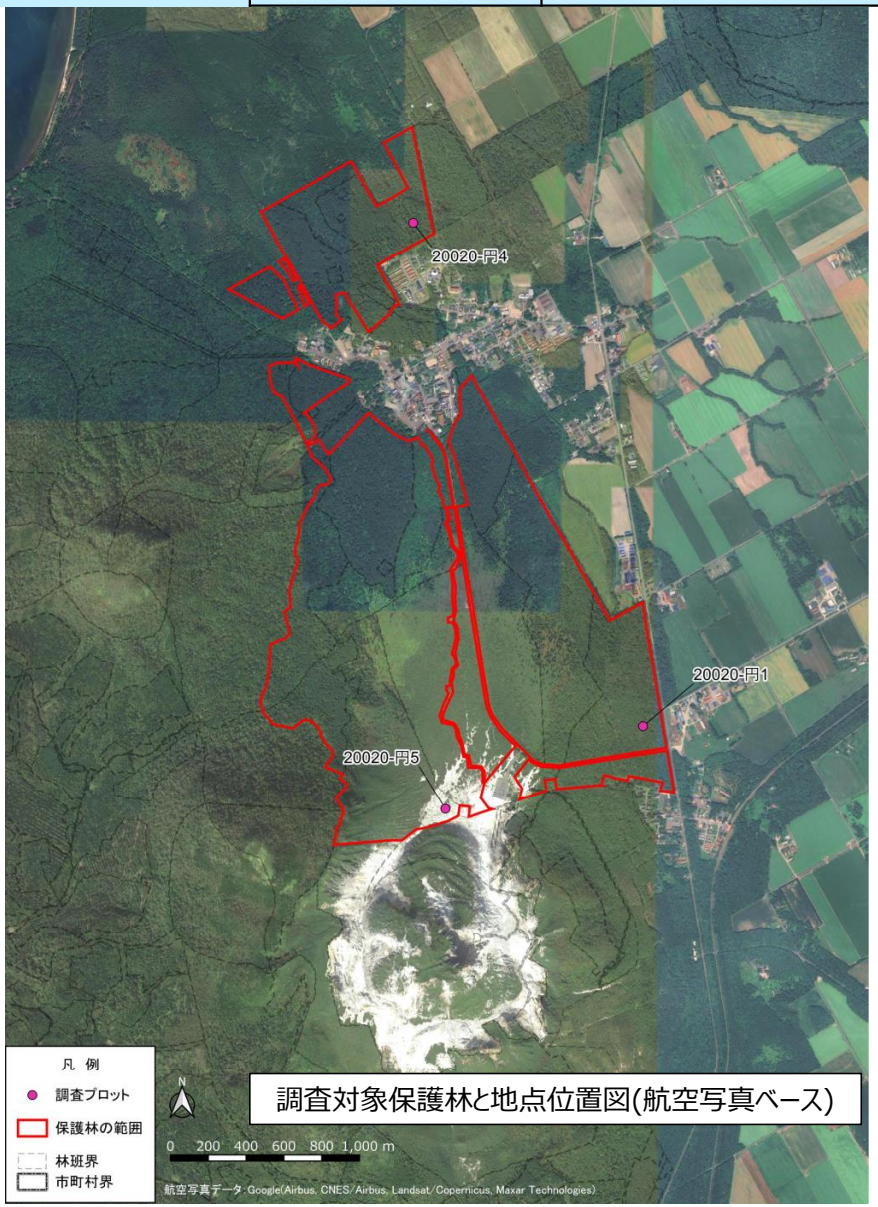
5 川湯硫黄山生物群集保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(3箇所)

保護対象：硫黄山周辺の生物群集を有する森林



調査対象保護林と地点位置図(地形図ベース)



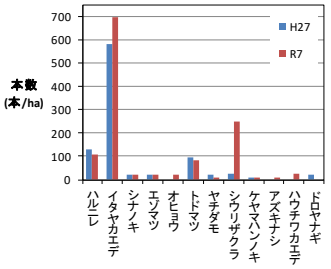
調査対象保護林と地点位置図(航空写真ベース)

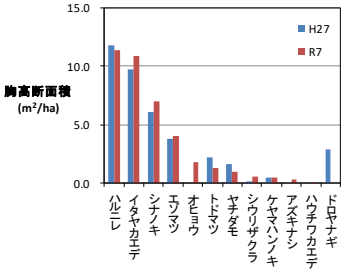
5 川湯硫黄山生物群集保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(3箇所)

プロットNo. 20020-円1

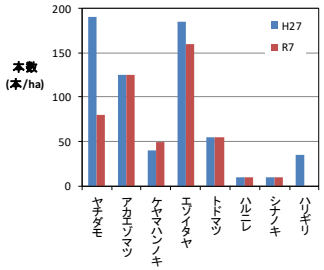
	H27	R7	比較結果等
磁北方向			根返り倒木が確認されたが、その他に大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

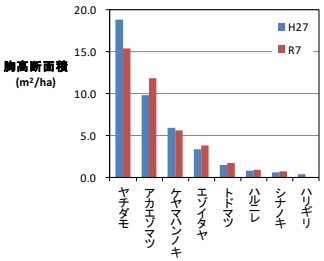




プロットNo. 20020-円4

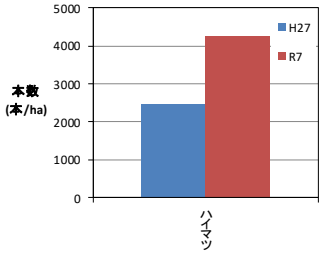
	H27	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

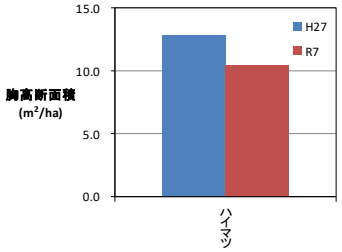




プロットNo. 20020-円5

	H27	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			同じ立ち枯れ個体が確認された。大きな変化はない。
磁南方向			ハイマツの植被率が下がった。
磁西方向			ハイマツの植被率が下がった。
天頂			大きな変化はない。





5 川湯硫黄山生物群集保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(3箇所)

総括表

保護林名		川湯硫黄山生物群集保護林					
保護対象種		ハルニレ	－	アカエゾマツ	－	高山植物	－
プロットNo.		20020-円1		20020-円4		20020-円5	
旧No.		30708-1(167-1)		30710-2(152-2)		31712-1(156-1)	
調査年度		R2	R7	R2	R7	R2	R7
調査日		8月29日	9月24日	9月17日	5月26日	9月16日	7月10日
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ	ハルニレ、イタヤカエデ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	なし	なし
	【高】樹高	20m以上	18～31m	10-20m	25～34m	－	－
	【高】植被率	－	80%	－	70%	－	－
	【高】DBH	30cm以上	20～80cm	30cm以上	25～67cm	－	－
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ	イタヤカエデ、シナノキ	エゾイタヤ	エゾイタヤ	なし	なし
	【亜】樹高	10m以上	8～17m	10m以上	7～23m	－	－
	【亜】植被率	－	50%	－	40%	－	－
	【亜】DBH	10cm未満	3～16cm	20cm未満	7～22cm	－	－
	【低】主要構成樹種	シウリザクラ	キタコブシ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ハイマツ	ハイマツ
	【低】樹高	1～5m	1～4m	1～5m	5～6m	10m以下	2～5m
	【低】植被率	－	20%	－	5%	－	40%
	【低】DBH	5cm未満	1～4cm	10cm未満	4～7cm	20cm未満	4～19cm
	最大樹高樹種 樹高	エゾマツ 25m	 31.1m	ヤチダモ 20m	ヤチダモ 34.9m	ハイマツ 5m	ハイマツ 5.8m
	最大直径樹種 直径	エゾマツ 60cm	ハリギリ 66.2cm	アカエゾマツ 50cm	ヤチダモ 67.1cm	ハイマツ 20cm	ハイマツ 19.6cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	－	50～80%	－	80%以上	－
	気象害 病虫害	風害(微) －	風害(微) －	風害(微) －	風害(小) －	－ －	－ －
	気象害、病虫害のコメント	風倒木は局所的で影響は軽微	古い風倒木がみられるが影響は軽微	風倒木がみられるが影響は軽微	風倒木少数あり	－	－
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	食痕 － 中	食痕、剥皮 － 中	シカ道、足跡、食痕 － 大	食痕 － 中	シカ道、足跡、食痕 － 中	シカ道、食痕 － 小
	痕跡のコメント	オシダ等にシカ食痕あり	シカの食痕やや多い	シダ類にシカ食痕多い	シカ食痕多い	エゾシカ3頭目撃 イソツツジに少数食痕あり	シカ道あり
林床植生	優占する植物種	オシダ	フッキソウ	オシダ、チマキザサ	オシダ	イソツツジ	イソツツジ
	植被率 植生高	疎性または散在 0.5cm未満	90% 0.1～0.7m	密生 0.5m未満	80% 0.1～1.0m	密生 0.5m未満	80% 0.1～1.8m
	天然更新状況	普通	普通	多い	普通	少ない	あり(イソツツジ)
保護林の状況等		キタコブシ、シウリザクラ、トドマツの更新が多い。プロットより道路側で低木の密生地あり。	林床はフッキソウ、キタコブシ等のシカの不嗜好性植物が多く、その他の植物は少ない。低木層は枯損木が多い。	プロット内に大経木の倒木でギャップあり。アカエゾマツが優占し、林床にオガラバナの実生が多い。部分的にミズバショウが生育している。	風倒木は少数みられるが立木は健全である。アカエゾマツの低木、倒木更新もみられた。	植生はハイマツ、イソツツジ、ガンコウランで占められる。	ハイマツとイソツツジが植生のほとんどを占め、ガンコウランが少数混じる。プロット内にハイマツの実生はない。イソツツジは花も実もみられる。歩道にシラカンバとミズナラ実生あり。
林分等の状況		大きな変化は認められない	エゾシカの影響あり	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真							

アカエゾマツの高木

保護林の外観

イソツツジ

保護林の景観

・針広混交林の立木は比較的健全であった。
・林床ではシカの食痕が多数確認された。
・保護林は良好に保護・管理されているが、エゾシカの影響を注視していく必要があるため、モニタリング間隔を5年ごとに変更し、林分の状況及び天然更新過程を観察していく。